



東松山市

第22期 広報誌 vol.3



きらめき市民大学

きらめき



CONTENTS

- ・自治会長及び事務局長のあいさつ 1
- ・修学旅行特集 2-4
- ・課題研究の取り組み状況 5-7
- ・自由投稿 8-9
- ・クラブ活動報告 10-11
- ・編集後記 11



自治会長挨拶

吾唯足知

第22期自治会長 江原廣子

令和の米不足に驚いていたら、近い将来定年という概念は捨て、働けるうちは仕事をするようになるとか。もはや余生を楽しむのは贅沢になってしまうのだろうか。

しかしきらめき市民大学の学生は毎週仲間と学び合える喜びを満喫している様子で、特に午前中の授業は学びの入り口を照らしてくれると大好評。

先日は東松山在住の登山家大山光一氏が登場。その生き様に圧倒されながら、彼の「人生を豊かに生きる条件」の中に『足るを知る』の文言があった。それを聞いた時、私は以前訪れた龍安寺の銭形蹲踞（つくばい）を思い出した。徳川光圀に寄進されたと言われているその手水鉢には『吾唯足知』と彫られている。その言葉を改めて心に刻み人生の秋を楽しみたいと思った。

そしてこの秋は2年生として皆と一緒に学園祭を大いに盛り上げて行きたい。

事務局長挨拶

事務局長 小林玲人

第22期広報誌「きらめき」第3号の発行おめでとうございます。また日頃より市民大学の運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。

第22期の皆様の入学と同年に事務局長として着任し、早いもので1年が経過しました。皆様も2年目を迎え、課題研究やクラブ活動等、充実した日々をお過ごしのことと思います。

2学期は学園祭やスポーツ大会等のイベントがあります。ぜひ多くの学生と交流し、楽しい思い出をつくっていただければと思います。

事務局一同、学生の皆様が充実した学園生活を送れるようカリキュラムの改善等に努めてまいりますので、今後とも、ご支援、ご協力いただきますよう宜しくお願いいたします。

学園 News

卒業式および入学式のお手伝い

令和7年3月14日に21期の卒業式、4月9日に23期の入学式が行われましたが、その前日と当日に手分けして皆でお手伝いをしました。参加された皆様どうもお疲れ様でした。



会場への案内



学生や来賓の受付



駐車案内



会場の設営

第22期修学旅行のあらまし

5月15日(木)の朝、35名の参加者は貸切バスで修学旅行に出発しました。

はじめに茨城県にある牛久大仏を見学しました。この大仏は、青銅製全高120mもある巨大なもので、ギネス世界記録に登録されています。体内のエレベーターで胸のあたりまで登り、そこから四方の景色を眺めることができました。



次に福島県いわき市にある願成寺白水阿弥陀堂を拝観しました。ここは阿弥陀堂が国宝にそして中の阿弥陀如来像や脇侍の菩薩像などが国の重要文化財に指定されています。

その後宿泊先へ。宿のホテル湯本温泉「浜とく」では、温泉で疲れを癒し、美味しい海鮮料理を堪能し、カラオケなどで時間を忘れて大いに楽しみました。



翌16日は、東日本大震災の津波の記録や教訓を残すことを目的とするいわき震災伝承みらい館を訪れました。被災体験者の語り部の方の案内で周辺の被災地域を巡り、当時の様子を後世に伝えていこうとする工夫や努力を知ることができました。途中で訪れた塩屋埼灯台がとても美しかったです。

その後小名浜港のショッピングモールでバーベキュー昼食と買い物を楽しみ一路帰途へ。定刻17時30分に大学に無事到着しました。

皆さん、大変お疲れ様でした。企画委員の皆さんとてもお世話になりました。

皆さん、大変お疲れ様でした。企画委員の皆さんとてもお世話になりました。



歴史・郷土学部 新井 三千代

修学旅行の感想文集

- 5月の修学旅行は、学び、涙し、笑い、歌い、食べた一泊二日の旅でした。「いい修学旅行だった」という声をたくさん聞き、一緒に旅した仲間として嬉しい気持ちになりました。旅をきっかけに交流も深まって行くような気がします。企画委員さんにはいい旅を企画していただき、出発から到着までの細かな心配りにも感謝しています。ありがとうございました。(M.F.)
- 夜行列車で行った最後の修学旅行から50年！人生終盤にこんな素晴らしいプレゼントが待っているとは…。牛久大仏、白水阿弥陀堂、初体験で素晴らしく、もう少しじっくり見たかったのが本心です!! 夜の宴会での皆様の生き生きとした楽しい様子、じっくり見学し楽しませて頂きました。冥土の土産のひとつになりそうで、ありがとうございました。(N.K.)
- お天気に恵まれ楽しい修学旅行でした。牛久大仏の大きさ、窓からの景色のすばらしさ。次の白水阿弥陀堂は古き歴史を感じ、庭園も蓮の花にたとえて作成されたとのこと。またいわき震災伝承未来館、地震・津波と災害になり復興途中でしたが教訓を得ての公園等も工夫されていました。風化させず今後も支援していきたいと思いました。(K.K.)
- 初めて訪れた「牛久大仏」大きさに感動しました。
- 牛久大仏、願成寺白水阿弥陀堂に参拝でき、感謝の気持ちでいっぱいです。世界の平和を祈りました。(M.I.)
- 白水阿弥陀堂の仏像に悠久の時の流れを感じました。語り部の方のお話が深く心に残りました。
- 白水阿弥陀堂の仏像のお姿に感激。(Y.T.)
- 最初に見た牛久大仏。日本一の牛久大仏は見ごたえがあり素晴らしい大仏様です。次は震災の一番ひどかったいわき市の豊間公園、被災者の援助活動の拠点となる施設、そして、そこでの語り部の方の説明が良かった。(K.S.)
- 学びに遊び(?)に楽しい修学旅行でした。特に震災語り部の方との被災地巡りが強く印象に残りました。(M.N.)
- いわき震災資料館を訪れ、語り部の方のお話を聞き、涙しました。有意義な修学旅行でした。
- はじめて参加した修学旅行、語り部さんの強い思いが印象に残っています。また、昔懐かしい底なしの宴会、楽しかったです。(M.N.)
- 上げ膳据え膳サイコー!! もちろん旅行楽しかったです。(S.F.)
- 数十年ぶりの大宴会でした。若き頃20代を思い出しました。
- バスの中にはぎやかで他の学部の方々と交流もでき道中楽しく旅をすることができました。牛久大仏は想像以上に大きかった。お酒もいっぱい飲んで大満足の修学旅行でした。(K.S.)
- バスの中でのお菓子、果物、旅館での食事、お昼の海鮮バーベキュー、お土産のまんじゅう、かまぼこすべて美味しく頂きました。



語り部の石川さん



くらしと健康学部および国際・文化学部の皆さん

修学旅行の思い出

修学旅行とは……？

学(マナ)び、修(オサメ)ると言う事か？

普通の旅行とは異なる意味が込められていると思いました。令和7年5月15、16日の日程でした。15日は茨城県牛久市にある青銅製の立像としてはギネスにも認定された世界一の大仏を見学。親鸞聖人が宗祖としての大仏です。鎌倉時代「念仏禁止令」により越後の国に流され、苦難の末、この牛久に近い常陸の国 稲田郡の西念寺にて20年余り布教活動をされたとのこと。

昼食後、福島県いわき市にある国宝「願成寺 白水阿弥陀堂」を見学。このお堂は奥州平泉 藤原清衡の娘の徳姫が岩城の国守であった岩城太夫則道公に嫁ぎ、同公の没後 このお堂を建立されたとのこと。このお堂には、国の重要文化財の本尊阿弥陀立像をはじめ、5体の立像と浄土庭園もあります。ちなみに白水阿弥陀堂の白水とは徳姫の故郷平泉の泉を文字ったとのこと。

牛久大仏も願成寺も歴史を学ぶ郷土・歴史学部にとっては有意義な場所でした。

その後 宿泊地の湯本温泉【浜とく】にて夕食。美味しい食事の後、部屋で飲酒する者、カラオケを楽しむ者、普段なかなか交流のない他学部の面々と交流が出来、とても有意義な一夜でした。

翌16日は、福島県いわき市の「いわき震災伝承みらい館」や東日本大震災の爪あとが残る所を地元ガイドさん（語り部さん）の案内で見て廻り、美空ひばりの「みだれ髪」で有名になった塩屋岬の灯台にも訪れ、無事夕刻にきらめき市民大学へ到着しました。

最後にこの修学旅行に引率された小林事務局長、企画された北堀企画委員長はじめ企画系の皆さん、プロカメラマン以上の腕前の高杉さん、安全運転に携わった東武観光の社長とドライバーさんに深い感謝の念を申し上げます。

誠に意義深い修学旅行でした。ありがとうございました。

歴史・郷土学部 幕田 勲

学園 News

自治会総会の開催

去る4月10日に第22期自治会定期総会が開催され、眞下議長の円滑な議事進行のもと、令和6年度の事業報告等及び令和7年度の事業計画等が無事承認されました。役員についても同じメンバーで継続することとなりました。



消防訓練の実施

9月4日2学期の始業日に恒例の消防訓練が行われました。雨天ため、講堂において災害の恐ろしさをDVDで学んだ後、消火器の操作訓練を玄関前の軒先の下で、また煙訓練を研修室4で実施しました。

消火器から噴出する水があらぬ方向に飛ぶ者も多く、日頃の訓練の大切さを再認識出来ました。



くらしと健康学部 課題研究班

私たちくらしと健康学部 22 期生は 15 名と少数のため課題研究は全員で一つの課題について行うことになりました。

研究課題を決めるに当たりなかなかしっくりする課題を見つけられない中、休憩中の雑談時に、「丸広」が無くなったけれどみんなは何処で洋服買ってる？との話題で何故かとても盛り上がりました。その後ファッションに関する課題研究はこれまでに研究されたことが無いことが分かり、ファッションを中心にシニアの生活を調べたら面白いとなりました。そしてきらめき市民大学学生のファッション意識の調査を軸として、シニアのファッションをテーマに課題研究を行うこととなりました。

5 月に学生に対するアンケートを行い、6 月に外部講師を招きファッションに関する講義を受け、7 月にファッションに関する博物館を訪問して課題研究を進めています。



国際・文化学部 課題研究 A 班 (13 名)

昨年 1 月に国・重要文化財に指定された箭弓稲荷神社の「素木彫刻」及び「幻の絵師・江野樗雪/梅青」を課題研究テーマとしました。

① 箭弓稲荷神社の「素木彫刻」

現在の社殿は天保 14 年(1843 年)に竣工しましたが、権現造りの社殿は荘厳で社殿の大きさは国内で 5 本指に入ると言われます。「国・重文」の指定根拠は、社殿建築に加え、繊細かつ精緻な江戸彫り、つまり「素木彫刻」が決め手となりました。

② 幻の絵師「江野樗雪/梅青」

比企郡松山町で生を受けた「江野樗雪」は、狩野派の山口了雲に師事し、甥の「梅青」を養子にして、川越に住まいし、関東一円に「丹青なる絵画」を残しています。

特に仏画や山水・花鳥画・天井画に優れ、見るものを圧倒します。



国際・文化学部 課題研究 B 班 「鋳物文化と東松山」

メンバー 10 名で研究テーマに取り組んでいます。まずは「鋳物とは何か？」というところから始まり、鋳物の歴史、東松山の文化財や芸術品などを調べています。

私たちの身近にある鋳物にも目を向けました。最近では、町中のモニュメントやマンホールなどを見つけると、つい足を止め見入ってしまいます。メンバーで市内を散策したときは、鋳物なのか、銅板なのか 材質が気になってみんなで触って盛りあがりました。



5 月に佐野市にある若林鋳造所を訪ね、鋳製の銘々

皿を作りました。貴重な鋳物づくり体験ができ、作品ができたときは感動しました。学園祭ではメンバーの作品を展示する予定です。

研究は各担当を決め 調べたことを発表し、学び合っています。漢字が読めない、字が小さすぎて見えないと爆笑することもあります、日に日に真剣な表情に変っています。発表の日まで緊張は続きますが、楽しみながら一步一步進んでいます。



歴史・郷土学部 課題研究 A 班 「比企地方の城跡・館跡めぐり」

私たちの住む比企地方には中世以降の城跡・館跡が 69 か所を数えるといわれる。

今回私たち課題研究 A 班 14 名は、郷土の歴史を知るため



当地の代表的な中世の城館跡を 10 か所に限定し探訪・観察することにした。

4～7 月に全員で 10 か所を訪問し（昼食会も兼ね楽し



く訪問)、遺構・遺跡を自分の目で確認し資料の収集をおこ

なった。そして今後はミーティングを中心に、城館の歴史や役割、形態といった基本的な項目だけでなく、自分達の見、聴き、考え、そして感じた事を来年 2 月に向けまとめていきたい。

私たちの身近にある城館を知る事により郷土の歴史にふれ、郷土愛を育む事ができればと思う。



歴史・郷土学部 課題研究B班 「東松山の歴史と地名の由来」

春休みに入り私達B班 11 名は、研究テーマを東松山の地名の由来とし、何故そう呼ばれるのかその理由などを調べることにしました。普段当たり前に使っている住所・地名も、それなりの経緯や深い歴史があるのではないかとの意見に、皆が賛同し全員一致で決まりました。

4 月からの現地調査の方法として、チームを 3 班に分け、5 地域を効率よく分担出来るように協議し、地名発生につながるポイントは ①人が集まるところから、②川が流れる地形から、③神社、仏閣があるから、などの事柄を全員が共有し調査訪問に当たることに。初日は、市役所～旧市内大鳥神社～上沼～松山市民活動センター～図書館、徒歩 8000 歩。この時の調査で感じたことは、東松山の坂の多さでした。三本の川に挟まれ比企丘陵に位置することに、ヘトヘトになって納得です。

江戸時代の地名・村名は、文献に残り現在に引き継がれている地域が多いですが、それ以前にも興味があります。来年の発表会は自信を持って報告します。



短歌・俳句・川柳

・短歌

我こそは蝦夷の子なり天さかる鄙里（ふるさと）に来て思ふそのこと

（令和 7 年 4 月 19 日）

高垣幽山

・俳句

密やかに 軒の滲や 春来けり（令和 7 年 3 月 28 日）

うつむける ほたるぶくろに 母想う

トランプの 切り札連打 灼ける夏

高垣幽山

本間周子

煌凡頭

・叙事詩的な時事川柳

強権者 振るう拳に 影は結ぶ 歴史の 波間に消えぬ 笑い声

冷戦の 亡霊舞い戻り 輪は固く 秩序は 砂上に築く 城の如

傲慢の 声高く響けど 空虚なる 新時代 暗雲低く垂れ 国を覆う

AI 太郎

大好きな仏像

京都太秦の広隆寺をご存じですか。平安京遷都以前に建立されたこの寺院は、京都府最古といわれています。大好きな仏像は、境内奥の霊宝殿の中で静かにたたずんでいる弥勒菩薩半跏思惟像です。7世紀前半の飛鳥時代の作とされ、昭和26年成立の文化財保護法により、仏像彫刻の国宝第一号に指定されました。

昭和30年代に、その姿に魅せられた若者が、顔の近くに添えられている右手の薬指を折ってしまうという事件が起きています。

アルカイクスマイルの優しい微笑みと思案にふける仏像の姿を眺めていると、心が穏やかになり時間の経過を忘れてしまいます。なお写真撮影厳禁の仏像に代わり、境内で購入したお守りをご覧ください。



歴史・郷土学部 北堀 彰男

茅の輪くぐりとは



皆さん6月下旬に箭弓神社に行った際に人がくぐる大きな輪が設置されているのをご覧になったことがありますか。この輪をくぐる神事を茅の輪くぐり（ちのわくぐり）と言い、夏越の祓の神事で行われます。

1年の前半を締めくくり、残り半年の無病息災を祈願する神事で、6月に多くの神社で行われています。生命力の強い茅で作られた「茅の輪」をくぐり抜けることで、半年間の罪や穢れを祓い、新たな生命力を得ることを目的としています。茅の輪をまたぎ8の字を描くように回ります。

来年は是非とも、白いういろうに小豆をのせた厄除けの和菓子「水無月」を召し上がり、箭弓神社で茅の輪をくぐって残り半年の健康をお祈りされてはいかがでしょうか。

歴史・郷土学部 金井塚 保子

我が家の大切な犬(家族)

最初の犬は雑種のコロ君。次はミニチュアダックスのチャッピー君。コロは、近くの友人宅から抱っこでわが家に。チャッピーは深谷市の店から車で50分揺られて我が家に。そのためか、コロはよく車酔いし遠出は苦手でした。一方チャッピーは車が大好きで、ペット棟の有る那須にたびたび家族旅行に出かけました。

ある日、一般道で、「右に」と私達が話していると、彼もちゃんと右を見るので笑っちゃいます。高速道路に入るとすぐに寝ます。翌日に日光に寄りいろは坂を進むと、短い両手足で前のヘッドレストを支えに立ち上がって、まるで男児の様に踏ん張って乗っていました。

今は空の彼方かな？ 2匹とも良き家族でした。“ありがとう”



歴史・郷土学部 小熊 初江

旅の思い出

40 年程前に友人と萩・津和野を旅した。萩焼の窯元を訪ね、初めて萩焼のお茶碗を手に取った。両手で包むように持つと、とても暖かく、ほっとするような気分になった。「なんか泣きそうになる茶碗だね。」と友人と笑いあったことも旅の思い出だ。数年前にも萩を訪れ、特売品の中から人肌のような桃色の湯飲みを数個買った。年々、いい感じに風合いが変わっていくようだ。いつも優しい気持ちにさせてくれる器だ。今度は、萩の土にふれ自分だけの茶碗を作りたい。



国際・文化学部 深谷 美鈴

インド映画刺さった!

先日、何気なく見始めたインド映画にすっかり魅了されてしまいました。

インド映画というと、きらびやかなサリーを纏った女性達による華やかなダンスシーンと、スクリーンから溢れ出すテンポの速い音楽をイメージする人が多いと思います。そんな中で、2013 年に日本で公開された「きっと、うまくいく」は、3 人の男子大学生の友情を中心に話が展開していきます。世界的に有名なインドの超エリート校「インド工科大学」をモデルにした大学生活を舞台に描いていることも興味深いのですが、ストーリーがとても感動的です。



インド映画界のトップスター「アーミル・カーン」が演じる主人公が、ユーモアと型破りな行動で、学歴や成績に縛られた周囲の人達の価値観を変えてゆく様子は心に響きます。笑い・涙・社会批判そしてダンスと時間を忘れさせるほどに見る人を引きつけます。特に、ラストのどんでん返しには、思わず歓声を上げてしまいました。

世界最大規模のインド映画の中にあっても、傑作の一つに数えられた作品です

夕食を準備する時間も忘れ、暗くなるまで一気に見入った私の一押しインド映画です。

国際・文化学部 磯田あや子

歌う喜び

私が小さい頃から、母は台所で食事の支度をしながら「花」を歌っていた。歌うことが母の喜びだったのだろう。毎日歌に包まれて貧しいが温かい日々だった。

私も歌うことが楽しい。病を得て、抗癌剤治療をしていた時、空を見ながら心の中で歌うと心が静かになった。



私は地域の合唱団で歌う。励まし支えて下さる仲間の声や、美しいピアノの音に、そっと乗せて歌う。声がとけ合うのが心地良い。きらめき大学のコーラス部エーデルワイスで歌う。やさしい先生に励まされ、皆が心を開いて思いきり歌う。温かく楽しいひとときだ。

老いてこそ味わう喜びがある。

歴史・郷土学部 本間 周子

コーラス 1920

プロのソプラノ歌手、利根川佳子先生ご指導のもと 19・20 期生がワンチーム（22 期再入学 8 名を含む）で“楽しく元気に”をモットーに活動しています。

23 期生の入学式での合唱披露に続き、6 月には東松山市民文化センターにおいて「第 9 回東松山地区合唱祭」に出場し



「すべての山に登れ」の曲では

初めての三部合唱に挑戦しました。ハーモニーは一人では作れません。仲間の声を聴いて心をつにすること、これが合唱の醍醐味です。

今は 10 月の学園祭に向け新曲の練習に励んでいます。

くらしと健康学部 永井ミチ子



城跡めぐりクラブ

城跡めぐりクラブは無事に 2 年目を迎え、メンバーの入れ替えが多少ありましたが、美男(?) 美女(!) 総勢 7 名で楽しみながらの城跡巡りをこなしてきました。



比企地方の代表的な城跡はほぼ踏破し、今年 6 月には 7 名全員で小川町の青山城にアタック!



しかし城跡ルートとなる山頂近くの「みはらしの丘公園」への道がまさかの封鎖。やむなく登山口か

ら歩いて城を目指しましたが仙元山頂上で時間切れ。大事をとって下山しました。



7 月には行田市の忍城、さきたま古墳公園を楽しんできました。

歴史・郷土学部 泉 晴樹

ハイキング部

去年の 4 月、8 名で結成された当部は月 1 回のハイキングを重ね(計 15 回)、現在は部員数 16 名という大所帯となった。

「雨にも負けず風にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けぬ」と往年の意気や益々盛んに歩いている。



(部員の声)

今年 2 月の宝登山行でデビュー。終わってからの"ノミニケーション"が最高! (くらし・大井)

おしゃべりしながら野山を行く爽快さ。食事とちょっぴりお酒もいいですね。次回の柴又行が楽しみ (国際・小川)

徘徊? とんでもない、私にとっては「拝快」クラブです。頼りがいのある素敵な仲間たちです (歴史・小熊)



コーラスクラブ エーデルワイス

昨年度は部員 11 名(うち男性 2 名)の小所帯でしたが、今年度になって 23 期の皆さん 8 名(うち男性 4 名)が入部され混声合唱団



としての体裁が整ってきました。「歌うことで健康になる」をモットーに練習に励んでいます。



第 21 回学園祭では楽器演奏クラブ「トスカ」のメンバーとのコラボで初めて皆さんの前で歌う予定です。是非聴きにきて下さい。

当クラブの雰囲気部員の方が短歌で詠ってくれました。

「興奮はまだ醒めやらず合唱の練習終えて家路につくも」

国際・文化学部 鬼頭 達男

学園 News

第 21 回学園祭のスローガンとポスターの決定

6 月に全学生からスローガンの案を募集し、学生投票の結果、今年の学園祭スローガンは 23 期の松浦和之さん提案の「ワクワクしたい!ワクワクさせたい!」に決まりました。

その後、夏休みを使って有志の方々が作成した 10 点のポスター図案について 9 月の始業式の日に学生投票をした結果、23 期の岩寄順一さん作成の図案が採択されました。

採択されたポスターとその他の図案については次のとおりです。



編集後記

22 期生も 2 年生となり、修学旅行や課題研究などますます充実した学生生活を送っています。そんな様子を広報誌第 3 号に載せました。

今回も多くの方々が記事や写真を寄せて下さり、誠に有難うございました。また編集にご協力頂いた広報委員(右の写真)の皆さまに感謝いたします。(T.K.)



きらめき市民大学 第 22 期自治会 広報委員会

発行日: 令和 7 年 9 月 25 日